

IR Day 2022 社会公共事業における質疑応答

日 時： 2022年9月7日（水） 14:50～15:20
形 式： Zoomウェビナーによるオンライン配信
説明者： 執行役員常務 雨宮 邦和

質問者A

Q：都市インフラ領域で市場を上回る成長を目指すとのことですが、過去、大型案件や更改案件で売上が増え、それが終了すると減少するなど変動が大きい事業との印象を持っています。自治体や中堅中小企業、医療のようにプラットフォーム化により、安定した事業にするための取り組みは進めていますか？

A：都市インフラは、概ね10年周期の事業であり、ここ数年そうであったように端境期がくると売上が落ちる傾向があります。例えば消防無線については、以前はデジタル無線の導入期限があり一時的に特需となる動きがありましたが、現状は更改の期限が無くなったので基本的には平準化されています。事業の安定化に向けて、付随する事業として、例えば消防システムと防災システムを新たに連携させるなど、高付加価値の事業としてオフアリング化する取り組みなども進めています

質問者B

Q：政府のデジタル田園都市国家構想についてはどのように取り組んでいきますか？

A：消防や防災、医療など都市にとって必要な機能は社会公共ビジネスユニットが担当しています。その仕組みをデジタル化していく上で、各事業を横断する組織であるクロスインダストリーユニットや他のビジネスユニットなどとも連携していきます。

質問者C

Q：買収したKMD社のソリューションを日本国内の自治体向けなどに展開する取り組みの進捗状況について教えてください。

A：KMD社のソリューションの日本市場への展開は、ワークフロー系や環境系のソリューションを検討していますが、現状で最も実現可能性が高いのはKDMコネクト（デ

デジタルインボイス) というソリューションで、これはデンマークの仕組みをそのまま使えろと考えています。お客様の会計システムといかに連携できるかが大きなポイントです。クラウドサービスは基本的にそのまま適用可能であり、現在認可を申請中です。

以上